



たんぽぽ

戸田市立喜沢小学校

令和7年9月30日

10月号

【学校教育目標】

「夢と希望をもち、
よりよい社会づくりに向け
行動する児童の育成」

いじめをなくし、だれもが楽しいと思える学校へ

校長 加藤 貴嗣

喜沢小学校では、一人一人の多様な Well-being を実現するために、「学びが楽しい」「学校生活が楽しい」をキーワードに教育活動に取り組んでいます。

「学校生活が楽しい」の土台は、いじめがなく互いに安心感を感じられる人間関係を築くことにあります。望ましい人間関係づくりの一步として、4月「うざい・きもい・きしよいではなく、正しい言葉遣い」、5月「おまえ、あいつでなく、やさしい言葉といじわるな言葉」、6月「言葉を正しく使うのは人だからこそできる、言葉遣いは自分自身の心」、7月「わかってくれない相手を責める前に、相手に伝わる言い方を」、8月「自分もみんなも大切にすると、互いの違いを認め合うこと」と、毎月、言葉を大切にすることについて朝会で話をし、各学級でも指導をしています。まだ課題はありますが、穏やかな言葉遣いが増え、落ち着いて生活しているように感じます。

さて、みなさんは「いじめ」をどのように理解されているのでしょうか。いじめは、「子供同士のけんか」「悪ふざけ」といったことはありません。いじめられた子供の心を深く傷つけ、ときには命や未来を奪う重大な人権侵害です。法律でも、「相手が心や体に苦痛を感じれば、それはいじめである」と定められており、どのような理由があろうとも「いじめられる側にも問題がある」という誤った考え方は明確に否定されています。いじめは、どのような理由であれ、いじめを行った側に責任があります。

私たち教職員は、「いじめを絶対に許さない」という強い思いをもち、未然防止・早期発見・迅速対応に全力で取り組んでまいりますが、いじめを根絶するためには、ご家庭での見守りと支えが欠かせません。

いじめをなくすために、ご家庭でできる大切なことは二つあります。

一つは、「お子さんが友達を傷つけるような言葉や行動をしていないか」「言葉遣いや遊び方、SNSのやりとりに無理や乱暴さがいないか」など普段の様子を気にかけていただき、自分の子供が誰かをいじめていないか見守ることです。

もう一つは、自分の子供がいじめられていないかを気にかけることです。

特に、いじめを受けている場合には次のようなサインが見られることがあります。

- ・学校に行きたがらない、朝の準備が遅くなる。
- ・持ち物が壊れたり、なくなったりする。
- ・家庭での表情が暗い、会話を避ける。
- ・急にSNSやゲームの使い方が変わる。

こうした兆候が見られたときは、早めに学校へご相談ください。

保護者のみなさまには、子供を守る大切な役割を共に担っていただきたいと考えています。学校と家庭が協力し合うことで、子供たちは安心して学び、健やかに成長することができます。

どのような理由があつたとしても「いじめを絶対に許さない」という思いを、私たち大人がまず共有し、「いじめは絶対に許さない」という姿を子供に見せることこそが、いじめを根絶し、子供たちにとって最大の安心につながります。

今後とも、どうかご理解とご協力をお願いいたします。